

小児腎臓病の長期経過観察

—腎機能低下率、死亡率—

門脇純一、星井桜子、安保 亘、乾 拓郎*、羽根靖之*
古山美智子** 倉山英昭*** 宇田川淳子***

国立療養所へ入院または外来受診をした小児の5つの腎臓病、1)ス剤感受性ネフローゼ症候群、2)膜性増殖性腎炎、3)紫斑病性腎炎、4)巣状糸球体硬化症、5) IgA 腎症の長期予後を腎機能低下率、死亡率につきアンケート調査し報告した。腎機能低下率は巣状糸球体硬化症で最も高く(29.0%)、ス剤感受性ネ症で最も低かった(0%)。死亡は5例と少なかったが、判明せる死因で感染症が多かったことは将来死亡率の低下が予測された。

長期予後、腎機能低下率、死亡率

〔はじめに〕

国立療養所病院は養護学校・学級を併設している施設が多い。換言すると、治療と教育が同時に実施できる長所がある。それ故に長期間患児の経過観察のできる状況があり、全国規模でこの点の調査をすることは重要課題と考えるてきた。

今回は経過観察上、最も注目される腎機能低下、死亡率について調査分析し、日常診療の経過、予後を考える際の資料提供を期した。

〔対象・対象〕

国立療養所へ入院、または外来受診した患児で長期間の経過観察が可能であったものが対象となっている。対象腎疾患は1)ステロイド感受性ネフローゼ症候群(ス感受性ネ症)、2)膜性増殖性腎炎(MPGN)、3)紫斑病性腎炎、4)巣状糸球体硬化症(FGS)、5) IgA 腎症の5疾患であった。MPGNの初

診の電顕像からはType1;43例、Type2;1例、Type3;4例が判明している。

腎機能低下としては血清クレアチニン値 1.5 mg/dl 以上、クレアチニンクリアランス 50 ml/分 以下の1つか、あるいは両方の条件を満たすものとした。

〔成績〕

症例数(男女別)、平均観察期間、死亡数、腎機能低下症例数は表1として示した。

5つの各種腎疾患の死亡率、腎機能保持率の推移は図1~5として示した。軽度の変化を持った5腎疾患の腎機能保持率の推移を1図にまとめ、図6として示した。腎機能低下率の最も著明なのはFGS、次いでMPGN、紫斑病性腎炎となり、ス感受性ネ症は0であった。

死亡例は全体で5例と少なく、死因の判明したものには水痘・DICの合併、肺炎などがあつた。

国立療養所西札幌病院小児科

国立療養所三重病院小児科*

国立療養所西多賀病院内科**

国立療養所千葉東病院小児科***

〔考按・まとめ〕

小児期発症の腎疾患の長期観察報告は本邦ではそれ程多いものではない。まして同じ機関から数種の腎疾患長期経過観察となると更に少なくなる。療養所病院でのこの種の調査報告は今回が初めてである。症例のある程度の偏

りのある可能性は否定できないが、日常診療上、経過予後を判断する一資料となることを期待して報告した。

死亡例は少なかったが、死因が判明せるうち感染症が多かったことは、将来減少が予測される。

図1 特発性ネフロセ症候群の長期予後 (微小変化群)

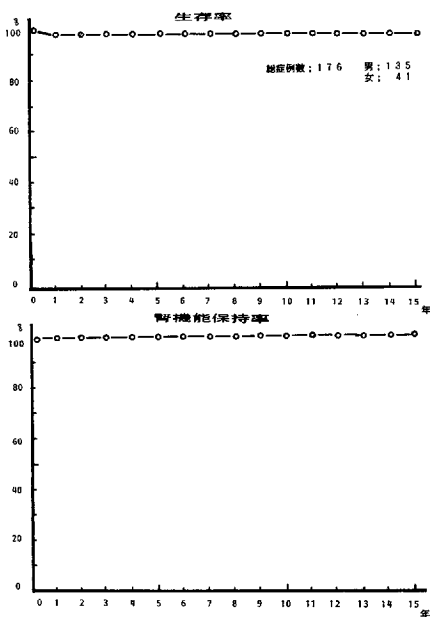


図2 慢性増殖性腎炎の長期予後

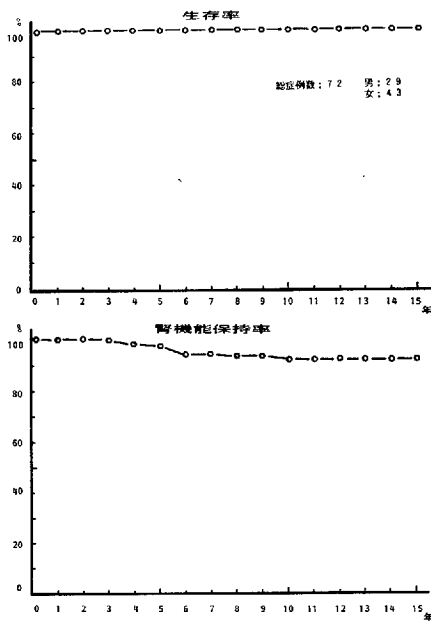


図3 紫斑病性VY炎の長期予後

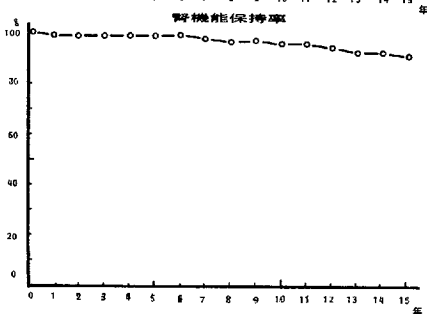
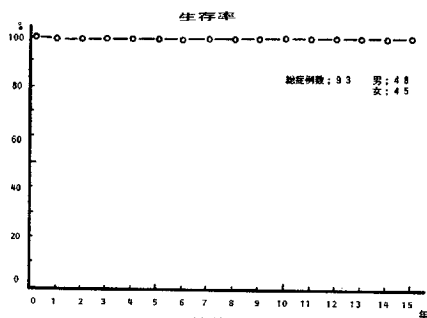


図4 暴状糸球体硬化症の長期予後

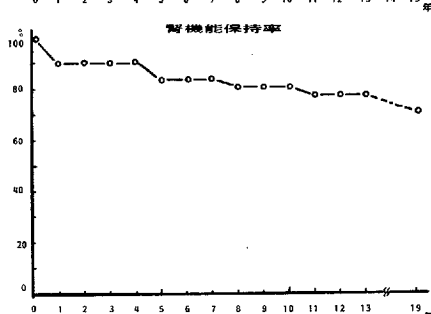
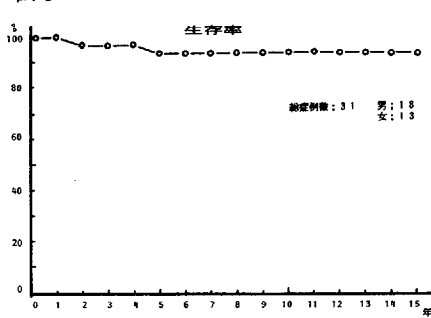


図5 IgA腎炎の長期予後 (千原典, 西札幌)

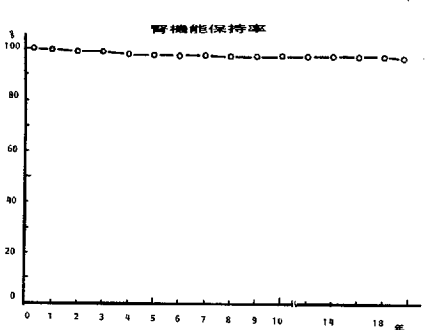
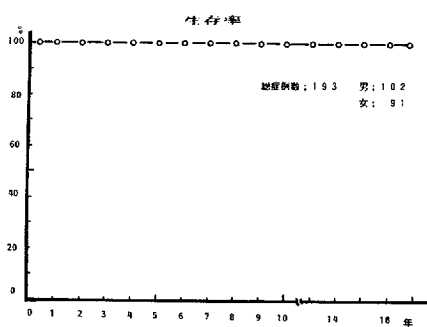
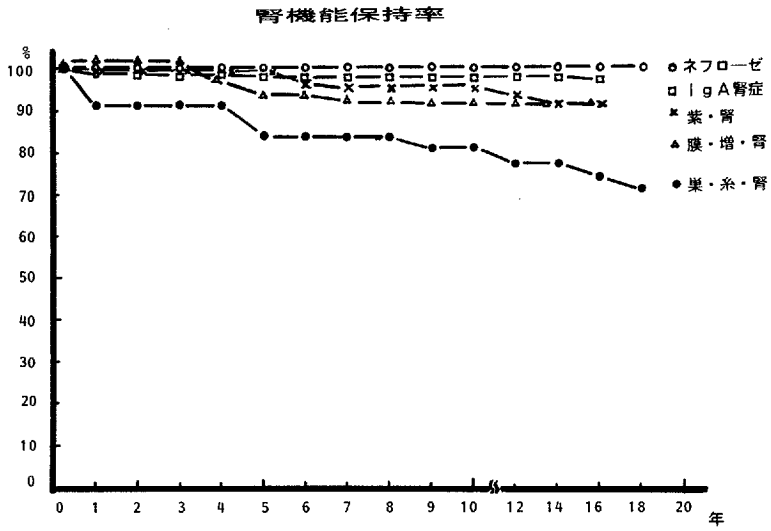


図6

小児腎疾患の長期予後





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



国立療養所へ入院または外来受診をした小児の5つの腎臓病、1)ス剤感受性ネフローゼ症候群、2)膜性増殖性腎炎、3)紫斑病性腎炎、4)巣状糸球体硬化症、5)IgA腎症の長期予後
を腎機能低下率、死亡率につきアンケート調査し報告した。腎機能低下率は巣状糸球体硬化症で最も高く(29.0%)、ス剤感受性ネ症で最も低かった(0%)。死亡は5例と少なかったが、
判明せる死因で感染症が多かったことは将来死亡率の低下が予測された。